

舟唄 (八代亜紀 歌) (原調)

阿久 悠 詞曲
浜 圭 介

Intro.

Am G F+7 E7 Dm7 Am F+7 E7 Am

9 Am G Am F Dm E7

13 Am E7 Dm Am

17 E7 Am Dm E7 3

21 Am Dm 3 E7 1, 3. Am

26 Am Dm Am E7 Am G F+7 Dm to Φ Am Esus4

33 2. Am Φ Am E7 Am G Am

D.S.

昭和54年
唄／八代亜紀

舟 唄

阿久悠 詞作
浜圭介 曲作

Am G Fmaj7 E7

Dm7 Am Fmaj7 E7 Am

Am G Am F Dm

おさけはぬるめのー かんが い い さかなはあぶったー イカでい

E7 Am E7

い おんなは むくちなー ひとが い い

Dm Am E7

あかりはほんやりー ともら い い しみじみーのめばー しみじみ

Am Dm

と --- おもいでーだけがー ゆきすぎ る ----

Am Dm E7 (tacet)

なみだがポロリとー こぼれたら ---- うたいだすのさー ふなうた

1.3. Am Tempo Rubato Dm

を おきの かもめーに ふか ざーけさ ー

Am E7 Am G Fmaj7 Dm to C Am

せてヨ いとしあのーこと ヨあさね ー するーダンチョ

2. Am Coda Am D.S.

ネ を ルルルル

E7 Am G Am

ル

1 お酒はぬるめの肴はあぶつたイカでいい
 女は無口なひとが いい
 灯りはほんやり 灯りやいい
 しみじみ飲めば しみじみと
 想い出だけが 行き過ぎる
 涙がポロリと こぼれたら
 歌い出すのさ 舟唄を
 沖の鷗に深酒させてヨ
 いとしあの娘とヨ
 朝寝する ダンチョネ
 2 店には飾りがないがいい
 窓から港が見えりやいい
 はやりの歌など なくていい
 時々霧笛が 鳴ればいい
 ほろほろ飲めば ほろほろと
 心がすすり 泣いている
 あの頃 あの娘を 思ったら
 歌い出すのさ 舟唄を
 ぼつぼつ飲めば ぼつぼつと
 未練が胸に 舞い戻る
 夜ふけてさびしく なったなら
 歌い出すのさ 舟唄を
 ルルル……